

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年10月4日】第97号



緊急事態宣言は解除に

長く続いていた緊急事態宣言が解除されてはじめての週が、10月4日(月)からスタートしました。解除ということで気が緩んでしまいそうですが、農大稲花小における新型コロナウイルス防止の措置に変わりはありません。三密を避け、手洗いや手指消毒の励行、不織布マスクの着用、換気、大声を出さないことや黙食など、子どもたちには引き続き同じルールでの行動を求めることになります。保護者の皆様にも、感染防止についての注意を促してから子どもたちを登校させていただくようお願いしています。

一方、感染防止を第一に、「食と農」の博物館訪問、東京農業大学伊勢原農場や厚木キャンパスでの校外学習は再開です。「また、中止になったら嫌だな～」と子どもたちからも心配する声がありましたが、感染防止の措置について子どもたちや教職員の理解も深まっている今、校外学習も再開できると判断したものです。校外でも、日々の授業でも、農大稲花らしい深い学びを実現してまいります。

オンライン授業参観

9月28日(火)から3日間、学年ごとにオンライン授業参観を行いました。各学級に3台のワイドカメラと1台のマイクを置き、毎日2コマの授業をZoom配信しました。1年生と2年生は担任による授業、3年生は理科の授業の参観が行われました。1家庭2デバイスまで受信できるものとしたので、ご家庭で、あるいは職場の休み時間などを利用して、子どもたちの授業を参観された保護者もいらしたようです。児童数をはるかに上回る視聴者数となり、ほとんどの保護者が参観されていたのは、うれしいことでした。帰宅した子どもたちとも、授業の話で盛り上がったのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染防止のために昨年度から始めたオンライン利用ではありますが、子どもたちの普段の様子を、家庭や職場から見る点がオンライン授業参観は、優れています。身動きのできないほど混んだ教室の後ろから見るのではなく、前から2方向、後ろから1方向で配信される画面越しに、じっくりと子どもの様子を見ることができます。今後は授業だけでなく、休み時間や給食の様子も配信したいと考えています。

アフタースクールも活発に

農大稲花小の多くの子どもたちは、放課後になると校内に設置されたアフタースクールに参加しています。ほぼ全員がメンバーとして登録し、希望する日や、希望するプログラムに参加するために、アフタースクールに行きます。プログラムの種類も充実していて楽しそうです。

小学校とアフタースクールは、同じ友だち、同じ校舎を利用するわけですから、基本的なルールは同じです。しかし、学級ごとに行動し、学習が中心となる小学校と違い、アフタースクールでは異学年交流も盛んですし、リラックスして好きなことにじっくり取り組む様子も見られます。アフタースクールは、本校の子どもたちの成長にも大きな役割を果たしているといえます。

一方、教職員は放課後の子どもたちを、「NPO法人 放課後アフタースクール」のスタッフに全面的に委ねることができ、その結果、退勤までの時間を有効に使い、さらに教材研究など自己研鑽に努める余裕も生まれています。

小学校では、アフタースクールのスタッフと密接に連携し、共に安全で楽しい放課後の実現に努めています。緊急事態宣言の解除により、短縮されていた利用時間も再び最長19時までとなりました。17時以降は保護者のお迎えか、最寄り駅までスタッフの随伴による帰宅がルールです。日がやや短くなってきましたが、スタッフと楽しそうに話しながら帰宅する子どもたちも多くいます。

出願はじまる

11月に行われる入学試験の出願が10月1日(金)から開始され、10月4日(月)13時に締め切られました。今年も昨年以上に多数の志願者に出願していただいたことに感謝しています。これからが本番です。本校としても滞りなく事前面接や試験が行えるよう、心して業務を進めてまいります。

校 長 夏 秋 啓 子